

国語科「論理国語」学習指導案

日 時：令和 6 年 10 月 25 日（金） 6 校時
学 級：第 2 学年D組 38 名
場 所：2 年D組教室
授 業 者：大関 由理
使用教科書：新編論理国語（大修館書店）

1 単元名 対比をとらえる 「対話の精神」 【B 読むこと（1）ア】

2 単元（題材）の目標

（1）論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

【知識及び技能】（1）イ

（2）設定した題材に関する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

【思考力、判断力、表現力等】B（1）キ

（3）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

3 生徒と単元（教材）

（1）生徒観

男子 17 名、女子 21 名、計 38 名の理系クラスである。反応がよく、課題に対して真剣に向き合おうとする生徒が多い。グループ活動の際も、話し合ったり、協力し合ったりしながら学習に取り組んでいる。

（2）教材観

「対話の精神」の学習を通して、対比によって物事の特徴が明確になることを理解した。本文中では、「対話」と「対論」（＝ディベート）は違うものであると説明されているが、異なる意見を述べ合うことの必要性に鑑み、ディベートを発展学習として設定することとした。

「地理総合」のエネルギー問題の学習に於いて、「風力発電」と「原子力発電」に関する出前講座を実施しており、専門家からの話を聴く機会を得ている。そこで、風力発電と比較することで「原子力発電は必要か」について、肯定派・否定派に分かれて議論する。

※「地理総合」（三浦貴子先生）とのコラボレーション授業

ディベートは、特定の論題について、あえて異なる立場に分かれて議論する手法のことである。自分の意見に関係なく、肯定・否定グループに分かれて、ジャッジと呼ばれる第三者に対して理論的に説得を行い、勝敗を決める競技・討論ゲームである。

ディベートを通して、物事を多角的な視点で捉え、根拠に基づいて客観的・論理的、且つ、批判的に考え、相手に理解してもらえるように分かりやすく筋道を立てて話をするスキルを身に付けさせたい。

ひいては、「論理国語」が目標とする、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ((1) イ)	①設定した題材に関する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。 (B (1) キ)	①今までの学習を生かして、粘り強く、ディベートを行うことで、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

5 指導と評価の計画（全 12 時間）

次	学習活動	評価規準と評価方法
一 6 時 間	○単元目標を理解し、学習の見通しをもつ。 ○本文を読み、段落毎に内容を読み取る。 ○筆者の主張を捉える。	【知識・技能】① 「記述の点検」学習プリント ・本文の内容を読み取れているかを点検する。
二 5 時 間	○ディベートについての動画を視聴し、ディベートのやり方を理解する。 ○論題について、情報を収集し、資料としてまとめる。 ○ディベートの役割分担をする。 ○ディベートするにあたっての立論シートを作成する。 ○ディベートを実践する。 <u>本時</u> ※原子力発電と風力発電を比較しながら述べる。	【思考・判断・表現】① 「行動の観察」ディベート ・データや根拠に基づいて論理的に述べているか、相手の発言内容・意図を理解することができるか、観点に沿って聞き取り、判定することができるか、観察する。
三 1 時 間	○学習の振り返りをする。 ※単元（教材）を通して学んだことをノートに書く。	【主体的に学習に取り組む態度】① 「記述の点検」ノート ・単元（教材）目標に対する振り返りを具体的に記述しているかを点検する。

6 本時の計画

(1) 本時の目標

「原子力発電は必要か」について風力発電との比較に於いてディベートすることにより、客観的・批判的・多角的な視点で物事を捉えることができるようにする。

(2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
導入 10分	1 本時の目標を確認する。 【2分】 2 ディベートの流れを確認する。 【3分】 3 ディベートの準備をする。 【5分】	「原子力発電は必要か」を論題としてディベートを実施する。 ※風力発電と比較しながら述べること。	
展開 30分	4 ディベート論題「原子力発電は必要か」 (風力発電との比較に於いて) 1) 肯定側立論 【2分】 2) 否定側質疑 【1分】 3) 肯定側応答 【1分】 4) 否定側立論 【2分】 5) 肯定側質疑 【1分】 6) 否定側応答 【1分】 〈準備時間〉 【1分】 7) 否定側反駁 【2分】 8) 肯定側反駁 【2分】 〈準備時間〉 【1分】 9) 否定側最終弁論 【2分】 10) 肯定側最終弁論 【2分】 〈審査時間〉 【1分】 11) ジャッジ 【1分】 ※予備時間 【10分】	【ディベートするに当たっての注意点】 ①最初に、結論を簡潔に、詳しい説明はその後に言う。 ②複数のことを言う場合は、その数を先に言う。 ③対戦相手ではなく、第三者であるジャッジ(審判)を説得する。 【ジャッジするに当たっての観点】 ①データを適切に使って説明できていたか。 ②相手に的を射た反論ができていたか。 ③最終弁論の理由説明に説得力があったか。	【思考・判断・表現】 「行動の観察」 ・データや根拠に基づいて論理的に述べているか。 ・相手の発言内容、意図を理解することができているか。 ・観点に沿って聞き取り、判定することができているか。
まとめ 10分	5 本時の振り返りをする。 【8分】 6 次時の予定を知る。 【2分】	・振り返りを入力し、提出させる。 ・単元(教材)を通して学んだことを記述し、発表することを伝える。	【主体的に学習に取り組む態度】 「記述の確認」 ・本時の学習活動の振り返りを言語化することができているか。

①生徒が主体的に問題発見・解決する力を養うための授業の工夫

成果

授業への意欲的参加

第三者の生徒もそれぞれの立場の主張をよく聞いている。

武田真由美

本校の生徒は一人で発表するという場面は割と自信がなかったり、恥ずかしがったりしてしまうが、グループで活動したことでしっかりと意見を述べる事ができていた。今回は本校の生徒の特性を踏まえたよい学習活動内容だったと思います。

高橋雅子

事前準備にどれくらい時間を要したのか？ディベートは何度かやっているのか？

佐藤誠男

黒板に流れを掲示してよかった

高橋雅子

反論するための理由も明確でわかりやすかった。

武田真由美

進行や計時など生徒の役割があり、みんなで授業を作っていた。

高橋雅子

全員が役割を与えられているため、気を抜いている生徒はいない。

佐藤緑

ジャッジにクラスルームを活用したことで、瞬時に結果がわかり、効果的だった。秘匿性もあり、生徒も安心してジャッジできたのではないかと考えた。

高橋雅子

一人の力では心細いが、チームで問題に向かうことで意欲が増すと感じた。

佐藤博之

課題・提言

オーディエンスの感想があれば、なぜ勝敗がついたのか確認できることによって次につながると思った。

佐藤博之

導入の部分での、生徒への授業の流れの説明が、少しわかりにくかった。

武田真由美

立論中の電子黒板が、小さくて少し残念でしたが、話すということに充填をおいているので

佐藤緑

②学習した知識・技能を総合的に関連づけ活用できるようにする授業の工夫

成果

教科横断型授業

内容を深くするために、地歴公民の時間に行った専門家による講演会が知識の向上につながったと思う。

佐藤博之

地理の授業内容を活かしており、横断的な内容になっていた。

佐藤緑

地理の授業で学んだ知識を多角的に捉えて言語化することができていた。

高橋雅子

地理で学んだことがディベートという形をとることで、考えの深化を図ることができていた。

高橋雅子

課題・提言

資料を読むのではなく、話し聞かせる事前指導が必要だったのではと思った。

佐藤博之

数学Ⅰ 学習指導案

実施日：令和6年10月25日（金）6校時

場 所：1年C組教室

対 象：1年C組

授業者：白沢 充

1 単元名

第3章 2次関数

（教科書：数研出版「高等学校 数学Ⅰ」）

（副教材：数研出版「REPEAT 数学Ⅰ＋A」）

2 単元の目標

様々な2次関数のグラフを書くことができ、増減の様子から、最大値、最小値を求めさせる。
また、2次方程式、2次不等式に2次関数のグラフを用いて解くことができるよう指導する。

3 指導に当たって

（1）単元観

2次関数のグラフをかき、2次方程式や2次不等式との関係を理解し、様々な課題に
グラフや判別式を活用できるように指導する。

単元計画 第1節 2次関数とグラフ 時間

第2節 2次関数の値の変化 時間

第3節 2次方程式と2次不等式 時間・・・本時（ / ）

（2）生徒観

1年C組（男子18名、女子20名）のクラスである。数学を苦手としている生徒が多いが、
授業には意欲的に取り組んでいる。お互いに学び合おうとする姿勢があり、周囲の生徒と協力
して課題に取り組んでいる。

（3）指導観

既習事項を活用して、いろいろな問題に取り組み、適切にヒントを与えながら生徒同士で学
び合いながら思考力を養うようにする。

4 本時の学習活動

（1）本時の学習目標

<評価規準>

ボールが投げられて高さが25m以上の時間を求めることができる。

【思考・判断・表現】

条件から不等式を立式し、解くことができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

自分の考えを教えたり、修正して学び合いながら、取り組むことができる。

（2）本時の指導に当たって

日常の事象に2次関数や2次不等式を活用することができることを実感するとともに、数学は
物理の学習内容にも密接に関係していることを理解させたい。

(3) 指導過程 < ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 >

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 5分	本時の目標 2次不等式を活用しよう 前時までの復習  を解け。		
展開 40分	課題 Aさんがボールを真上に投げてから x 秒後の、手を離れた位置からのボールの高さ $y(m)$ は、  で表される。ボールの高さが 25m 以上であるのは、何秒後から何秒後までか。 グループで問題を解く。 解答を発表する。 別解について、どのように考えたのか話し合う。	実際にボールを真上に投げて、生徒にイメージを持たせる。 生徒が行き詰まっていたら、適宜ヒントを与える。 どのように考えて解いたのかを発表させ、説明不足の部分は補う。 生徒から別解が出なければ別解の図を提示する。	グループ内の話し合いに参加できているか③ どのように考えたのかを説明できるか② 図を用いて説明できるか②
まとめ 3分	本時の振り返り グラフを用いることの有用性を確認する		

(4) 本時の評価

評価項目	評価の観点 [判断基準]		努力を要する 生徒への支援
	十分満足できる [A]	概ね満足できる [B]	
思考・判断・表現	条件から不等式を立式し、解くことができる。	条件から不等式を立式することができる。	適切なヒントを与える。
主体的に学習に取り組む態度	他者に説明して理解させることができる。	他者と相談して理解することができる。	適切なヒントを与える。

教科別協議会 【数学】白沢（授業者）、島内（記録）、根守（指導助言）、進藤、神居、高橋朗子、高橋典子

①生徒が主体的に問題発見・解決する力を養うための授業の工夫



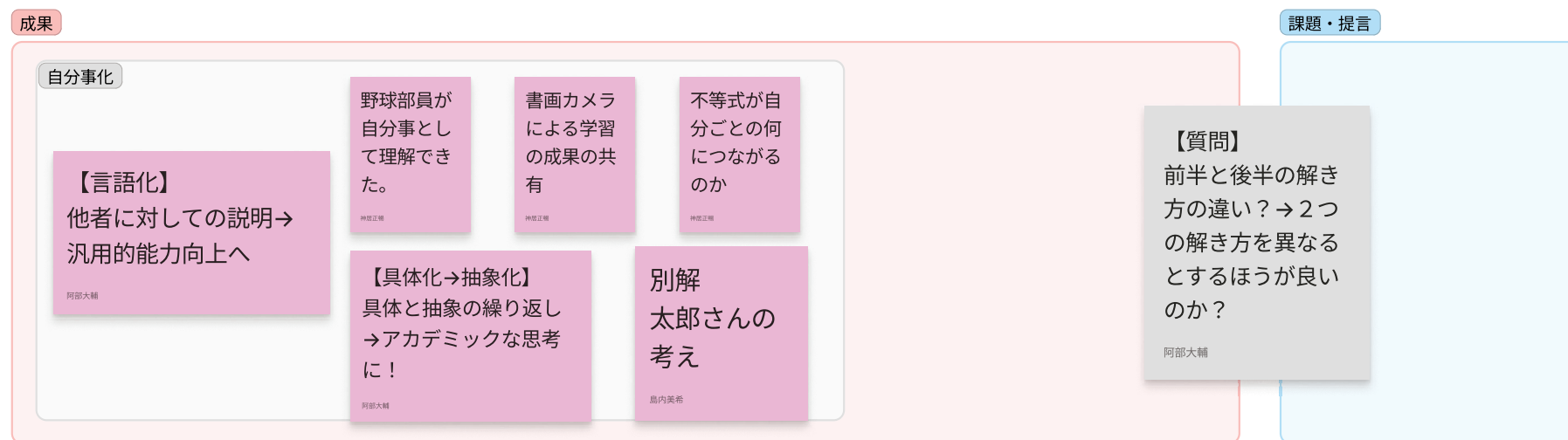
授業者

- ・計算できる／資料解釈苦手

指導助言

- ・板書...メモとる力は？主体性？
- ・数学と物理の魅力...伝わっている／コラボの継続を！
- ・生徒派遣...実践して確認を！ → グループと個の展開があってもよいかも

②学習した知識・技能を総合的に関連づけ活用できるようにする授業の工夫



- ・着地点...余韻のある授業だった
- ・部活動への広がりが出てくると主体性につながる
- ・自分事...どう考えていくかが大事！
- ・生徒指導の機能を有効活用！ → 自分事はキーワードになる！
- ・各教科の魅力を伝えてほしい
- ・授業の中で生徒を魅了する！

実施日時：令和6年10月25日（金）6校時

場 所：1年B組教室

対 象：1年B組

授 業 者：小玉 智里、Thomas Martin

教 科 書：Power On English Communication I（東京書籍）

1 単元名 Lesson 5 Banana Paper

2 単元の目標

バナナペーパープロジェクトについて理解を深め、エンフエ村の人々の暮らしの変化を読み取る。再使用(再利用)できる日常用品について、英語で発表することができる。

3 単元と CAN-DO 形式での学習到達目標との関連

目線、話す速度、声の大きさなどに注意しながら、自分のことや日常的なことについて簡潔に考えをまとめ、平易な表現で発表することができる。【1年後半 話すこと（発表）】

4 単元観

本単元はバナナの茎を再利用して紙を作ることが、貧困や環境問題の解決、野生動物の保護に役立っていることを読み取らせるものである。さらに、日本の伝統的な知恵と技術が、持続可能な発展に貢献している事実や、新屋地区の企業における「社会資源循環型のまちづくり」を知ること、本校のSDGs関連の活動の意義を再認識させたい。

5 生徒観

男子16名女子24名から成るクラスである。活発な男子もいるが、全体としては落ち着いて授業を受けている様子が見られる。基礎学力が定着していない生徒も一定数おり、学力差は大きい。音読やペアワークには積極的に取り組んでいる。

6 単元計画（総時数：9時間）

主な言語活動（◎本時の内容）	評価
- 好きな果物やバナナペーパー製品、バナナペーパープロジェクトについて、英語で自分の考えを伝えることができる。 - バナナペーパープロジェクトによるエンフエ村の人々の暮らしの変化について読み取ることができる。 ◎本レッスンの内容を踏まえて、身近にある物の再使用(再利用)について、英語でプレゼンすることができる。	- 活動の観察 - 単元テスト（後日） - Google フォームによる級友からの評価及び自己評価

7 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 単元に関する語彙や表現等を理解している。 - 再使用(再利用)できる日常品についての情報や考えを話して伝える技能を身に付けている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、再使用(再利用)できる日常品についてプレゼンしている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、再使用(再利用)できる日常品についてプレゼンしている。

8 本時の目標 (9/9)

(1) 目標

本レッスンの内容を踏まえて、身近にある物の再使用(再利用)について聞き手に分かりやすく英語でプレゼンすることができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	教師の支援及び留意点
導入 10分	・ Lesson 5 で出てきた単語を確認する。グループ内の 1 名が単語の説明を英語で行い、他のメンバーが単語を当てる。 ・ Lesson 5 全体の復習 Kahoot を使って ALT が復習を行う。	・ 単語の説明に時間がかかっている様子が見られたら、支援に入る。 ・ Kahoot の中に新屋地区の企業の取り組みに関するものを加える。
展開 35分	・ 本時の学習課題 To be able to give an effective presentation about everyday items which can be reused or recycled ・ 身近にある物の再使用(再利用)について ALT と JTE がデモンストレーションを行う。 ・ 4 人 1 グループで、教師の例をもとに、聞き手を意識して分かりやすく英語でプレゼンする。他のグループは Peer's evaluation sheet を使って発表者の評価をする。 ・ 良いアイデアがあれば全体で共有したり、アイデアを発展させたりする。	・ 教師が電子黒板でスライドを提示し、日常用品の再使用（再利用）の例を述べる。 ・ プレゼンをする際の留意点（視線、声量、間など）を伝え、意識させる。また、ALT と JTE でやり取りの例のモデルを提示する。 ・ 発表の様子を観察しつつ、流れが滞っている場合は支援する。 【評価】 身近にある物の再使用(再利用)について聞き手に分かりやすく英語でプレゼンすることができる／しようとしている（活動の観察）【思考・判断・表現／主体的に学習に取り組む態度】 ・ 言語面や内容面に対してフィードバックを行う。
まとめ 5分	・ Presentation の自己評価用紙に記入する。 ・ 時間があれば発表させる。	・ うまくできたこと、改善すべき点、これから頑張りたいことなどの振り返りをさせる。

教科別協議会【英語】 小玉・トーマス（授業者）、浅野（助言者）、杉田（司会）、今泉（記録）、渡部、鈴木、青山

①生徒が主体的に問題発見・解決する力を養うための授業の工夫

成果

指導

2タイプの教員デモはメタ認知を高めるのに良いかも、と思いました。

生徒が落ち着いていて、普段の授業の様子が伝わった。

短い時間でも発表することで自信につながっているなと思いました。

生徒

生徒が楽しんで取り組んでいた。

グループで活発に意見を出しあっていた。

課題・提言

プレゼンテーション

プレゼンの内容を黒板に記録して共有すべきだった。

プレゼンのアイデアを発展させる活動をすればよかった。

どの班が何について発表したか分かれば良かった。

生徒にMCやタブレット操作を任せるのもありか、

指導助言

良かった点

プレゼンの前に良い例と悪い例をALTと生徒に分かりやすくデモンストレーションしたおかげで、生徒は顔を上げて大きな声で発表していた。

評価シートを英語で書かせていたが、生徒は英語でしっかり書いていた。聞き手にも役割を与えることが大切である。

②学習した知識・技能を総合的に関連づけ活用できるようにする授業の工夫

成果

実社会とのつながり

授業で学んだことを実生活に生かすことができる。

高校生らしい良いアイデアだった。

教科書の内容を、地域のこと、自分事とできていたと思います。

前回の授業内容も難しくてもペアでカフト楽しそう。

課題・提言

指導

生徒の考えを共有したり、広げたりする活動があればよい。

各班の評価をしているので、テンプレートを用意して、評価発表をさせてもいいかと思いました。

Kahootの誤答を活かしたい。さらっと進んでいたのですが、そこが学びのポイントになるかと思いました。

新屋の取り組みに戻することで、学習した知識を活用している実感が出るか、

改善点

導入の英単語を英語で説明するアクティビティはALTにヒントのモデルを示してもらえばよかった。

プレゼンが一方的にならないように、質問・感想も行った方が良かった。

令和6年度 秋田県立新屋高等学校 授業改善実践

研究課題

「多面的な授業を通して、論理的思考力や主体的に問題発見・解決する力を養うための指導の工夫」

<手立て・実践方法>

- ・実社会の課題をSDGsとするが、「起業体験プログラム」や「高校生ring」など、総合的な探究の時間に実施している活動内容につながる授業を行うことで、より深い学習へ導く。
- ・教員1人が1回、上記のテーマに沿った教科横断型授業を実施する。

令和6年度 授業改善実践 コラボレーション授業一覧

No.	氏 名	教科	対象HR	コラボレーション教科 (教諭名)	授業テーマ	テーマ設定理由・内容・身につけさせたい力など
1	杉田道子	英	2B	総探(2年部)	ジェンダーギャップ指数からみえるキャリアの課題	キャリアに関するジェンダーギャップの認識を深め、国際比較により分析力やグローバルな視点を身に付ける。また、ジェンダーギャップを埋める方策を発想してみることで、課題解決力を高める。
2	長谷部 正則	理	1AB	保健体育	人体のしくみと熱中症対策について考える。	気候変動により、熱中症の発生が増加傾向にある。身体の仕組みや発生のメカニズムを学習し、生徒自身に熱中症の予防を習慣付けさせる。
3	佐藤誠男	国		日 本 史 探 究 (神居正暢)	国文学的な見方と歴史学的な見方(～『枕草子』を中心に～)	史料や文学作品など一見すると、文字データに過ぎないものを、別の視点からアプローチして、新たな知見や考え方を見いだす力を身に付けさせたい。
4	三浦貴子	地 公	2D	国語	エネルギー問題について考える	世界各地で起きている気象現象の変化や自然災害の原因の一つとされるのが温暖化である。そのため各国がCO2削減のため様々な取り組みを行っている。日本では発電システムの変更が迫られている。その中で原子力発電について、考察し自分の考えをもつことができるようにさせたい。
5	大関由理	国	2D	地公(三浦)	エネルギー問題について考える 論題「原子力発電は必要か」	地理で調べたエネルギー問題「原子力発電は必要か」についてディベートを実施する。根拠に基づいて論理的に考え、短時間に説得力ある主張を行う発信力、相手の意見を聞き、反論を準備する批判的思考力、物事を様々な視点で捉える多角的な視野を身に付けさせる。
6	高橋典子	数	3A	キャリアプランニング(渡部・岸)	地域の環境・プラスチックごみ問題を考える	プラスチックごみ問題の現状を理解し、資源循環型社会を形成するために今後の生活であるべき態度を身につける。
7	岸 由美	理	3A	キャリアプランニング(渡部・高橋)	地域の環境・プラスチックごみ問題を考える	プラスチックごみ問題の現状を理解し、資源循環型社会を形成するために今後の生活であるべき態度を身につける。
8	高橋 健	理	2 A ーD	保健体育	人体のしくみと熱中症対策について考える。	世界的な気候変動によると思われる気温上昇によって、全国的に熱中症の発生が増加傾向にある。体温維持のための体の仕組みや、熱中症発生のメカニズムを生理学的に学習し、生徒自身に熱中症の予防や対策を身に付けさせ、それを習慣付けることを目的とする。

9	佐々木 渉	芸	3D	探究芸術（菅原）	我が国の伝統芸能・三線	琉球王国の伝統芸能で用いられる三線の演奏を通して伝統文化に触れ、グローバルな視点で物事を捉える力を育む。
11	石塚道康	数	1A	benesse（奥野）	データの活用	膨大なデータの中で、偏差値計算はどのようにして求め、活用されているのか学ぶ
12	佐藤 緑	国	3C	英語（今泉）	古典と英語の俳句を読み比べよう。	古典と英語の俳句を読み比べて、それぞれの言葉の選び方や表現の違いの面白さを読み味わう。
13	高橋雅子	家	2A	数学（打矢）	健康的な食生活について考え、実践しよう。	数学で学ぶ「割合」を活用して、汁物の分量計算を日常生活でも実践できるようになる。また異なるみそ汁の試食を通して、濃度の違いが、人の味覚や食生活にどのような変化を生じさせるのかを考え、自分の生活を見直す機会として捉えさせる。
14	小玉智里	英	1B	農業×生物×公共×美術（秋田酒造 野本翔様、大森山、美大、栗田、ガラス工房）	バナナペーパープロジェクト、新屋地区で行われている、社会資源循環型「あらや流田植えからの酒造り」プロジェクトを比較学習することで、sustainabilityー環境・経済・社会のバランスが取れた持続可能な社会資源循環型のまちづくりについて考える。	アフリカと地元（新屋）の取組を比較学習することで、題材を他人事ではなく自分に引き付けて主体的に考える力を養うとともに、多面的に学び、考える力を養う。
15	佐藤雅子	国	3A	英語（高崎）	現代の俳句と英語の俳句を比較してみよう。	英語と日本語の俳句を比較することにより、異文化理解を図り、字数に限りがある俳句を作ることにより、自分の考えを簡潔に表現する力を養う。
16	青山 進	英	1A, C	農業×生物×公共×美術（秋田酒造 野本翔様、大森山、美大、栗田、ガラス工房）	バナナペーパープロジェクト、新屋地区で行われている、社会資源循環型「あらや流田植えからの酒造り」プロジェクトを比較学習することで、sustainabilityー環境・経済・社会のバランスが取れた持続可能な社会資源循環型のまちづくりについて考える。	アフリカと地元（新屋）の取組を比較学習することで、題材を他人事ではなく自分に引き付けて主体的に考える力を養うとともに、多面的に学び、考える力を養う。
17	高崎雅恵	英	3A	国語（雅子）	現代の俳句と英語の俳句を比較してみよう。	英語と日本語の俳句を比較することにより、異文化理解を図り、字数に限りがある俳句を作ることにより、自分の考えを簡潔に表現する力を養う。
18	白沢 充	数	1C	物理	ボールの鉛直投げ上げ運動についての問題を2次不等式を活用しよう。	数学、物理は密接に関係している教科、科目であり、ベクトルや微分法、積分法なども後に学習する内容であるため、他教科で学習した内容を活用できる力を養う。
19	齊藤明子	国	1B	英語（小玉）	外国人観光客に日本文化を紹介しよう。	クラスメイトを対象としたスピーチ原稿を生かしながら、外国人観光客に対して日本文化を説明する際のより良い説明の仕方を考察し、それぞれの方法で紹介する。
20	菅原 真紀子	芸	3D	探究芸術（佐々木）	我が国の伝統芸能（琉球王国・三線）	琉球王国の伝統芸能で用いられる三線の演奏を通して伝統文化に触れ、グローバルな視点で物事を捉える力を育む。
19	進藤尊信	地公	3CD	芸術（菅原）	ルネサンス美術	ルネサンス期の芸術について、歴史以外の教科の視点から学ぶことを通じて、多様な視点を身につける。
20	加賀谷悟	情	1A-D	数学A（加賀谷）	乱数を使ったサイコロの出目は同様に確からしくなるか検証しよう	確率の用語「同様に確からしい」がpythonの乱数関数でも正しいかを検証する。また、同様に確からしくなるには何回の試行することが必要かを検証する。for文、if文の使用法を考える。
21	佐藤博之	商	2A	情報処理	地域の危険箇所を調べ、防犯・安全マップを作成してまとめる。	地域を自らの足や地図を利用し、危険箇所を確認し、他者に伝えるマップを作成する。PCのアプリケーションソフトを使い作成することで利用方法や、伝え方の工夫、地域の課題など情報処理の

				木)		力を育む。
22	渡部祐司	体	2 A - D	理科(高橋)	熱中症と水分補給のしくみについて考える。	気候変動により、熱中症の発生が増加傾向にある。身体の仕組みや発生のメカニズムを学習し、生徒自身に熱中症の予防を習慣付けさせる。
		体	3A	キャリアプランニング(高橋・岸)	地域の環境・プラスチックごみ問題を考える	プラスチックごみ問題の現状を理解し、資源循環型社会を形成するために今後の生活であるべき態度を身につける。
23	神居正暢	地公		古典探究(佐藤誠男)	歴史的学見方と国文学的な見方(～『太平記』を中心に～)	史料や文学作品など一見すると、文字データに過ぎないものを、別の視点からアプローチして、新たな知見や考え方を見いだす力を身に付けさせたい。
24	鈴木由香	地公	1CD	総探×生物基礎(阿部)	公共:秋田県内におけるSDGs実践事例と課題	【プレゼン】生態系保全に向けて知識を得るだけではなく、自分ごととして考える「提案力」を育む。 【実習】県内における取組事例や課題を把握し、SDGsに関する理解の深化と行動力につなげる。
25	阿部大輔	理	1CD	生物基礎×総探×公民(鈴木)	生物基礎・総探:生態系を保全するためのソーシャルビジネスの提案 公共:秋田県内におけるSDGs実践事例と課題	【プレゼン】生態系保全に向けて知識を得るだけではなく、自分ごととして考える「提案力」を育む。 【実習】県内における取組事例や課題を把握し、SDGsに関する理解の深化と行動力につなげる。
			2 B C	家庭	発酵のメカニズムと実践	【プレゼン】発酵のメカニズムと活用技術を身につける。
			2D	探究	秋田における真核生物の事例と分布	【プレゼン】3ドメイン説や五界説などをより身近に感じ、生態系に対する興味関心向上につなげる。
			3E	農業	植物ホルモンとその活用	【事例紹介】種なしブドウや果実成熟、観葉植物などに植物ホルモンが活用されている事例を把握し、身の回りの生活で活用できるアイデアを創出する。
26	島内美希	体	2 A - D	理科(高橋)	熱中症と水分補給のしくみについて考える。	気候変動により、熱中症の発生が増加傾向にある。身体の仕組みや発生のメカニズムを学習し、生徒自身に熱中症の予防を習慣付けさせる。
27	打矢 景	数	2A	家庭科(高橋雅)	健康的な食生活について考え、実践しよう。	濃度計算が、専門科目で学んでいる「調理」や「栄養」の場面における分量計算につながることを理解させる。 濃度の違いが、人の味覚や食生活にどのような変化を生じさせるのかを考え、自分の生活を見直す機会として捉えさせる。
28	山崎 洵	体	2 A - D	理科(高橋)	熱中症と水分補給のしくみについて考える。	気候変動により、熱中症の発生が増加傾向にある。身体の仕組みや発生のメカニズムを学習し、生徒自身に熱中症の予防を習慣付けさせる。
29	今泉生子	英	3C	国語(佐緑)	古典と英語の俳句を読み比べよう。	古典と英語の俳句を読み比べて、それぞれの言葉の選び方や表現の違いの面白さを読み味わう。
30	武田 真由美	体	2 A - D	理科(高橋)	熱中症と水分補給のしくみについて考える。	気候変動により、熱中症の発生が増加傾向にある。身体の仕組みや発生のメカニズムを学習し、生徒自身に熱中症の予防を習慣付けさせる。